

12月号の1枚:霧の石老山

経過報告:森林・林業の復権にむけて

富士山麓を源流とする「サプライチェーンモデル構築」

活動15年目を迎えた法人化12期目 (2013年)の年次通常総会で以下2点 を採択しました。

- 1)後継者育成:若者の森つくり→「知足の森」と言う名で本年4月から活動しています。
- 2)森林・林業の復権:「富士流域〜 首都圏を繋ぐサプライチェーンモデル構 築」

上記2件の内、1)は順調に経過しています。(先月号で状況報告済)

2) 「森林・林業の復権」は手掛かり が掴めず苦悩していましたが、昨年6月 に富士山が世界遺産になった事で源流域の動きが活発になり中流・下流都市部にも胎動が有ります。

本年4月に「山梨県森連」との交流が始まり、6月28日には山梨・県民主体の「桂川源流地域協議会」が発足、そのシンポジュウムのご縁で環境省や忍野八海を守る団体等、桂川流域の森林保全に励む団体とお近づきになりました。これらの団体とネットワークを組みながら「サプライチェーン構築」を見しています。12月6日(日)には「第2回桂川源流地域協議会」のシンポが決定しています。森林現場活動や広報発活動は、当会会員でもある桜井先生、

酒井先生のご指導を受けながらより正 しい方向を手探りで進めています。

源流:富士吉田市に「緑のダム天上山」、上流:大月市に「大月森つくりの会」が当会を支えてくれています。また、中流の相模原市も「さがみはら森林ビジョン」の具現化を進め、市民が自発的に「森と繋がるフォーラム相模原」を立ち上げ官民一体の森への経済循環性に協働しようと動き出しています。サプライチェーン運動は、何年掛るか予想もできませんが、「夢も本気で見れば夢でなくなる」と思うのです。

石村 黄仁(本会、代表理事)

今月の定例活動



12月6日(第一日曜日):

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上 知足の森/若者の森づくり

いずれも弁当持参。参加費:400円

12月20日(第三日曜日):

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費:400円









[定例活動]小原本陣の森

11月1日(第一日曜日)

遠くの山々も澄みきった青空に映 える季節となりました。

11月1日に行われた小原定例活動 では、緑のダム北相模の川田さん、 小林さん、角田さんの3名と ForestNova☆の2名の計5名が参加 しました。活動内容としては、前回 に引き続きハイキングコース北周り に道標の設置作業を行いました。 今回新たに設置した道標は、これま で作製していた丸太に直接文字を彫 ったものでは無く、板を白く塗装し たものに文字を貼り付け矢印を記 し、切り株や丸太、雑木林に釘を打 ちつけて固定するという方法で行い ました。何故このような方法で行っ たかというと、これまでの道標では 丸太を利用して作製していた関係

上、ハイキングコースに入る前に拠 点にて文字の彫り出し等をしなけれ ばならず、設置作業を行っていく中 で如何しても向きが合わないものが あったり、森の中では見え辛いもの があったりしたからです。

この新しい道標は、ハイキングコ 一ス中で道が分かりにくいところを 中心に、前回までに設置していた分 では足りない場所に設置しました。 目論見通り、新たに設置された白い 道標は、植物が生茂る森の中でもし っかりと目立っており、今まで分か り難かった入り口付近も分かり易く なったかと思います。

今回の定例活動では、新たな道標 を6個設置したので、ハイキングコー スには前回までに設置した分の15本 と合わせて計21本の道標を設置し終 わりました。今回で道標の設置作業 は一段落ついたので、次回の定例活 動から設置した道標の調整やハイキ ングコース自体、非常に道がくずれ



ている部分や、道幅が狭い部分があ るのでその整備を行っていく予定で す。

これまでハイキングコースの整備 はあまり行って来なかったので、か なり道が荒れていて、誰もが気軽に 登れるような道とは言い難い道にな っています。ですから、次回の定例 活動で行うハイキングコースの整備 をしっかりと行い、素人でも登りや すい、登ってみたいと思えるような ハイキングコースにしていきたいで

中嶋 竜太 (Forest Nova)

いて、かつ上部と思われるところが

急斜面でとても測量できませんでし

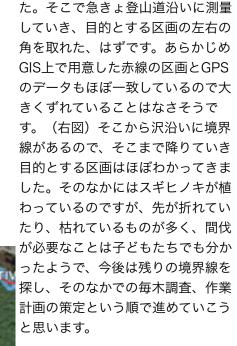
[定例活動]知足の森

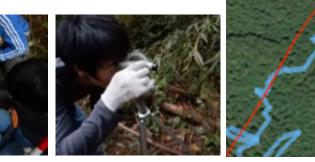
11月1日(第一日曜日)

今月の知足の森の活動では、長福 寺さんが所有する森林の境界線を探 す活動を行いました。これまで住職 さんから見せていただいていた手書 きの区分図やそれをもとに作られた だろう役所の地図などはありました が、それらをGIS上に組み込んでも お世辞にも合致することはなく、い ずれにせよ現地での調査は必須とな っていました。そこで、以前桜井先

牛に教えてたいただいたポケットコ ンパスを用いた測量に中高生で挑戦 してみました。今回は、斜面を登っ て登山道に出たところや車道のカー ブの頂点など間違いそうにない地点 から始めていくことにしました。さ らにGoogleEarthなども使い、目標 とする地点の緯度経度も用意し、ハ ンディGPSとも比較しながら作業を 進めることにしました。が、登山道 を上がったところから2つ他の方の 所有する区画を通り、目的とする区 画、という順だったのですが、その

区画の上部と登山道が微妙にずれて





宮村 連理(本会、理事)



[定例活動]相模湖嵐山の森

10月18日 (第三日曜日)

落ち葉の絨毯が出来る頃。当日まで危ぶまれていた天気も、機嫌を直したのか、お昼から青空も見え、良好。今月も無事、定例活動を行うことが出来ました。参加21名。

今回の嵐山定例活動は全体的に、 特に若者が極端に少ない様子。いざ 朝礼で集まってみると、いっそう少 なさが露わとなりました。というの も地球環境部の中高生たちは、試験 のため片手で足りるほどしかおら ず、ForestNovaも今月は休みが重 なったため3人と、明らかに普段ないたのです。人数が少いこので を、作業もうます。今回は木工班のの 置き場作成に人手が多く必要とが とだったので、全体で活動内容を絞 込み、みんなでお手伝いをする形と なりました。

まずは緑のダムのお花畑班。午前 中は畑の耕しと、柿の収穫(写真 左)。午後には梅の剪定などを行い ました。特に柿は、鮮やかな橙色を したちょうど食べ頃の柿が大量で、 ざるから溢れるほど。即席の竹で作った棒や、既存の道具などを使って収穫しました。

続いては、木工班の仮置き場作成。特に午前中は、緑のダムの森林整備班が多く参加したためか、熟練の技を持つ男手が一気に増えました。カーン!カーン!と木材に木材を打ち込む音が、林内に響き渡ります(写真中下)。柱を組み建てる一方で、材を鋸で切り落としたり、鑿で削ったりと、同時進行で柱を作製。職人技が光る活動となりました。

お昼の時間となり、バラバラと基地に人が集まり始めます。人数に対して多めのスープにお花畑班が収穫した柿。持ってきたお昼ご飯はいらないくらいです。みんなでおいしくいただきました。

さて、お腹もいっぱいになったら作業に戻ります。まずは相模湖森・モノづくり研究所が小学校への授業で使う丸太の輪切り作製、ノルマは90個。それからForestNovaが小学校の環境教育で使う大きめの丸太椅子を5つです。それぞれチェーンソーでバシバシ切り落としていきます。ForestNovaの一部も参加し、久しぶりに触るチェーンソーを教え

てもらいながらお手伝いを行いました。途中、熱暴走のためか動かなくなったりもしましたが、冷めるまで鋸で切りつつ、早々とノルマを達成することが出来ました。

地球環境部はノコギリ、ヘルメットなどの道具の整理。午後からは望星の森で樹高、胸高直径を測る毎木調査を行った模様(写真中上)。

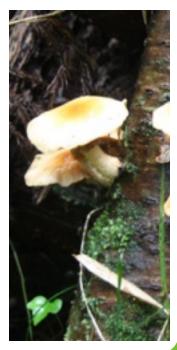
世持 由美子 (Forest Nova) 内野 郁夫 (本会、理事)











[連載]

^{緑のダム、リレーエッセイ} 「楽しく、休まず、ボチ ボチな人々」

平成21年10月にサラリーマン稼業から足を洗い、たいした事もせずにのんびりと骨休めの日々を送っていたところ、兄(川田浩)から、「時間があるなら山に来ないか」と誘われたのがキッカケで、H23年から嵐山に通い始め、早いもので、丸4年以上経過することになります。

この間、JR東日本との橋渡し役を勤め、東京駅八重洲北口「間伐材の積み木による東京駅舎制作イベント」実現に一役買う等、ささやかなお役にたつこともありました。

一方で、チェーンソーの講習を受

ける等、それなりの努力をしては みたものの、学生時代はもっぱら 野球に明け暮れ、社会人になって からも、冬場のスキー以外、自然 と親しむことはほぼ皆無だったた め、自然に関する知識に乏しく、 未だに、経験豊富な皆さん方の博 識に感心しきりといったところで す。

これからも、山での作業の後の



「かどや会議」、ときには八王子での発声練習等の番外編も含め、幅広い分野でのお付き合いも楽しみながら、「さぼり癖」をつけることなく、真面目に取り組んでいくつもりでいます。引き続きよろしくお願いします。

川田 晃(本会、会員)

[報告 1] ForestNova報告 小原本陣祭に参加

11月3日文化の日。この日は毎 年、地元小原にて「小原宿本陣祭」 が行われます。今年は、数日前から 冷雨が降り続いていましたが、不思 議なことにいつの間にか暗雲は立ち 去り、まっさらな青空の下、今年も 無事開催される運びとなりました。 今年のForestNova☆は、PRブース での展示と、大名行列への参加で す。ブースでは、小原で行っている 森の活動を中心に、森の保全や小原 との関わりを、パネルやアルバム等 を通して啓発。また、木工作品や椅 子机等を置いて雰囲気づくりをしま した。いつもは木工体験等をしてい るので常に複数名はいるがやがやと したものでしたが、今回のブースは 交流をメインにした自由でゆるやかなブース。人数は少ないものの、落ち着いた雰囲気のため、より濃い話を行うことができました。一般の方はもちろんのこと、緑のダムの方々や、小原の方々、ForestNova☆のOBOGさん方や、知り合い等たくさんの方が来て下さり、まったりとした時の中でパネル等をじっくりと

見ていただき、様々な会話を楽しむことができました。

さて、一方の大名行列 では、二年生の子が代表 で参加。去年に引き続 き、今年もお姫様の傘持 ち担当です。なかなか 重量のある傘持ちだった ので、みんな心配してい たのですが、みんなを 想裏切り、見事衣装を こなした彼は、最後まで





重い傘持ちをやり遂げました。お昼はお世話になっている小原の小林さん宅でお昼ご飯をいただきました。 毎年ご飯を用意して下さる奥さんと、笑顔で出迎えて下さる小林さんには、感謝の気持ちで心が温まります。緑のダムの方々や、

ForestNova☆のOB、OGさん、お 初にお目にかかる小林さんの知り合

から

いの方々等など、たくさんの方が小林さん宅を訪れていました。みんなで一緒にご飯を囲むことの、なんと幸せなことか。会話の一つひとつに優しさが込められていて、私たちの心をじんわりと温めてくれました。また来年も来よう、そう思わずにはいられません。

私たちが小原宿本陣祭に参加するよ

うになってから今年で5年目。行く たびに小原の方々や緑のダムの 方々、ForestNova☆と関わって下 さっている方々の温かさを感じま す。来年も再来年も末永く付き合っ ていきたい、そう強く思う一日でし た。

世持 由美子 (Forest Nova)



[連載] 相模湖・若者の森づくり

今月の嵐山の活動は2校の中学校ともに試験前だったので、参加はOBのみで、4人で活動しました。今回行ったのはトチノキの毎木調査です。胸高直径と樹高を木についてるプレートごとにはかります。実際にとってみると、時間



の関係もあり、見つからなかった 木も何本かあり、まだまだ調査が 必要です。それらについてはま です。それらについて番のま とととったデータを は、今まのデータに怪しいる もていうこと。具体的には、そナンバーは しかないはずなのにと れに振り分けられてる樹木に、 はしかないはずなのにと か、逆に表にいれる がある、などです。

去年も同じ調査しているので、 そのときの調査用紙をスキャンしたPDFを見てみると、やはり今回と同じプレートナンバーの木が調査用紙になく、すみっこの空欄に書いてあります。それを去年どうやって処理してるのかはなど要調査です。私もその調査には参加し ているので全力で記憶をたどって いるところです。

これまでの調査で、データ量も 多くなり、それに伴い、データが バラバラになってきたり、これは なんのデータなのか、と整理して る私もわからなくなってきまし た。

これからの課題は、まず今回の データを入力して、表にないのは もうひたすら今までのデータを遡 って、どこからいれられてないの か探し、次の調査時にはスマート にデータが入るようにしていきた いです。これからもがんばろうと 思います。

木村 縁 (都立多摩科学技術高校2年)

[報告2] 森とつながるフォーラム相 模原、設立シンポジウム

11月21日に相模原市民会館で、森とつながるフォーラム相模原設立シンポジウムを行いました。今回のシンポジウムでは、酒井先生の「森につなげる地域材活用事業のた

めのサプライチェーンづくり」の基調講演、説得力ある刺激的なお話と、フォーラム開催に対し心強いエールをいただきました。またコーディネーターの本橋様の見事な進行役による「森林資源を生かした豊かな地域づくり事業を成功させるためには」の報告&提言では、パネリストの皆様の活発な議論も出て、会場からも貴重なお話もいただきお陰で無

事成功裏に終わることが出来ました。詳細は来月号で報告します。

<フォーラム相模原が目指すもの> 森林資源を生かした豊かな地域づくりを目的として、地域材の生産から販売までのサプライチェーンの構築、森の机事業を核とする木育、環境教育事業、地域材の広報活動など、森とつながる事業として「森と つながるフォーラム相模原」という 協議会を設立しみなさまとともに豊 かな地域づくりを推進していきたい と考えています。

なおこのフォーラムは環境省の平成 27 年度地域活性化に向けた協働取組加速化事業の一端として行われるものです。

丸茂 喬(本会、理事)





[報告3]東海大高輪台高SSH 「リベラルサイエンス生物」 森林実習を実施

11月10日の事前学習に続き、14日 に同校スーパーサイエンスハイスクー ル (SSH) の森林実習を行いました。



本会から、内野、宮村両理事と高校生スタッフが指導し、植生調査と毎木調査を行いました。あいにくの雨でしたが、これまでの調査結果との比較も行うことができました。事後学習も19日に実施しています。それらの超過結果も含め、来月号で参加した高校生の感想を報告する予定です。



参加にあたって:

初参加者は、9時15分までにJR 相模湖駅前集合してください。 服装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑らな い靴 成るべく皮製手袋、万一 の怪我に備えて保険証、飲料水、 主食、第3日曜は自分の食器 (お椀・お箸)

危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

そして、沢山の参加で森は、良くなる。 (台風の日は勉強会開催。16年間、 一日も休まず"継続は力"。) 名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局:154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人:NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

URL: http://www.midorinodam.jp

Facebook: http://www.facebook.com/658588827578641

E-mail: info midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください

協働団体:セブン-イレブン記念財団、相模原市(市民協働推進課)、

東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体: WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、

神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、

マルモ出版、22世紀やま・もり再生ネット